

## 日本麺用小麦品種「ナンブキラリ」の栽培法と目標生育量

## 【概要】

## 1 目標収量・生育量、栽培法

- (1) 目標収量（坪刈り）は600kg/10aです。その場合の各生育量は、穂数330~400本/m<sup>2</sup>、減数分裂期茎数400~550本/m<sup>2</sup>、越冬後茎数900~1,200本/m<sup>2</sup>です。
- (2) 播種量は6~8kg/10aです。
- (3) 融雪期追肥量は、窒素成分4kg/10aです。減数分裂期追肥は、目標減数分裂期茎数の範囲内である場合、実施しません。
- (4) 刈取時期が10日以上遅延すると、容積重が低下するため、適期刈取に努めます。

## 2 留意事項

- (1) 耐寒雪性は「やや弱」であるため、雪腐病防除を徹底しましょう。
- (2) 赤かび病抵抗性は「中」であるため、「ナンブコムギ」と同様の防除を行いましょう。

## 【試験データ等】

目標収量 <坪刈り> (kg/10a)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	減数分裂期茎数 (本/m <sup>2</sup> )	越冬後茎数 (本/m <sup>2</sup> )	播種量 (kg/10a)
600	330~400	400~550	900~1,200	6~8

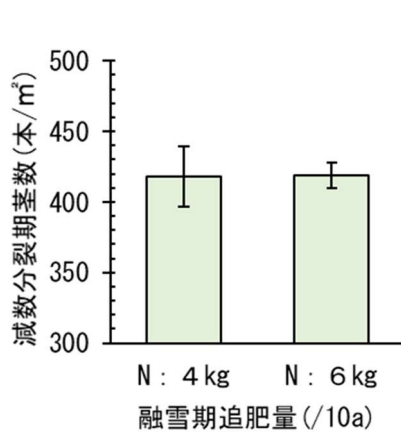


図1 融雪期追肥量と減数分裂期茎数

融雪期追肥量が窒素成分4kg/10aと6kg/10aでは、減数分裂期茎数の差は見られない。  
 ※1 目標越冬後茎数の範囲内での比較。  
 ※2 t検定で有意差なし(p<0.05)。  
 ※3 エラーバーは標準誤差

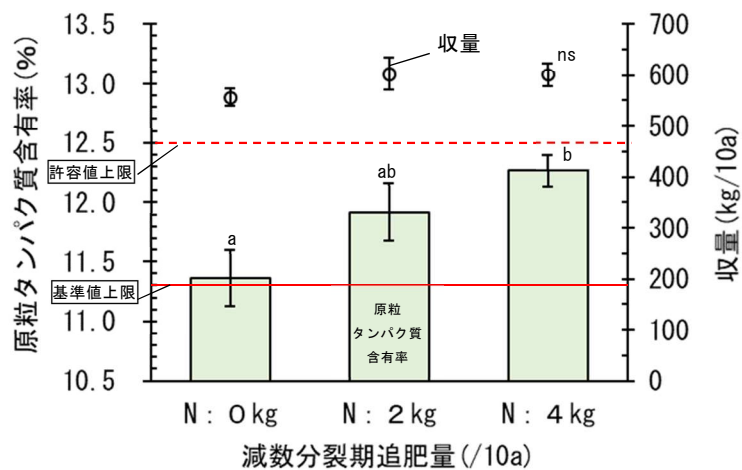


図2 減数分裂期追肥量と原粒タンパク質含有率

減数分裂期追肥量を窒素成分2kg/10a、4kg/10aとすると、原粒タンパク質含有率は基準値上限を超過する。  
 ※1 目標減数分裂期茎数の範囲内での比較。  
 ※2 異なる英字間で有意差あり。  
 nsは有意差なし(Tukey-Kramer法、p<0.05)。  
 ※3 エラーバーは標準誤差

【令和5年度成果】日本麺用小麦品種「ナンブキラリ」の栽培法と目標生育量 (R5-普-04)